

# 三星鹿屋

県立鹿屋高等学校PTA広報誌



第65号

発行日 平成25年12月24日  
発行 県立鹿屋高等学校PTA  
発行責任者 PTA会長 床次広有  
編集責任者 広報部長 市來理恵子  
題字 吉永志帆(2年)

- 1面：祝創立90周年、90周年をむかえて
- 2面：90周年記念特集
- 3・4・5面：三星祭・文化祭、三星祭・体育祭
- 6面：がんばれ!受験生、三星王道発行、センター試験出願式、合格祈願
- 7面：部活動紹介
- 8面：PTAミニバレー大会、文化祭PTAバザー、母親研修会、編集後記

## 祝創立90周年

11月2日(土)、創立90周年記念式典等が盛大に開催されました。

まず始めに、亡師亡友慰靈祭がしめやかに執り行われました。

その後、記念式典が行われ、創立90周年の歴史の重みを実感し、今後の更なる発展に向けて一歩を踏み出しました。

記念講演では、有限会社クロフネカンパニー代表取締役 中村 文昭氏をお迎えし、「お金でなく人のご縁ででっかく生きろ」の演題で講演していただきました。作務衣姿で登場した中村さんの身振り手振りを交えた絶妙な語り口で、会場はいっきに中村さんの世界に引き込まれていきました。



講演会



記念式典



亡師亡友慰靈祭

人生において  
大事なことは4つ  
返事は0秒  
頼まれることは試されることは  
できない理由は言わない  
できることをやる!

二 PとTの協働力  
PTA総会での九十パーセントを超える出席率、学校行事での積極的な活動等、P(保護者)のサポート力は他校の

成績を許さない。しかし成長をしつかりと支えられるのか、自省も含めて一度提言をしてみたい。

保護者として自分の子供が親の鏡である。大人や社会で行われる病むという悪循環に陥る気がする。教育は、家庭と学校などではないか。されば、当事者である保護者と教師が、子供が健全な成長を達成するといふのが最も大事なことだ。親の鏡である。大人や社会で行われる精神的に病めれば子どももまた発達するには何が必要なのか一考してみたい。

一 より逞しき生徒

言動に主体性のない生徒が増えている。学力が伸びない原因を他に転嫁してはいけない。現実から目をそらし、恣意的判断に身を任せていなければ。「艱難辛苦汝を玉にす」を銘記すべきである。

人の能力は一様ではない。人の力のなさを素直に認め、常に切磋琢磨することだと考えられる。眞の三星健児たんがためには、自分の力のなさに気づき、明日の夢に向かつて邁進することができる。このような若者を将来性のある青年と世間は評価する。畢竟人生とは、自分とどう付き合うかである。何々に「恵まれた」、「恵まれなかつた」で生きてはいけない。精神的に逞しくあらねばならない。

保護者として自分の子供が親の鏡である。大人や社会で行われる病むという悪循環に陥る気がする。教育は、家庭と学校などではないか。親の鏡である。大人や社会で行われる精神的に病めれば子どももまた発達するには何が必要なのか一考してみたい。

大隅の雄たらんがために  
雄たらんがために

教頭 下京洋一(昭和47卒)

PTA総会での九十パーセントを超える出席率、学校行事での積極的な活動等、P(保護者)のサポート力は他校の成績を許さない。しかし成長をしつかりと支えられるのか、自省も含めて一度提言をしてみたい。

保護者として自分の子供が親の鏡である。大人や社会で行われる病むという悪循環に陥る気がする。教育は、家庭と学校などではないか。親の鏡である。大人や社会で行われる精神的に病めれば子どももまた発達するには何が必要なのか一考してみたい。

# 90周年記念特集

河野紀巳 昭和22年卒

生まれは昭和4年、物心ついた頃は第一次世界大戦後の大不況で「大学は出たけれど職は無し」と言われた時代でした。満州事変、日華事変と戦況は拡大し、小学6年の時、大東亜戦争が起こり戦時色は濃くなり、鹿屋中学校の入学も推薦入学の3組で150人でした。

1年生、2年生までは授業がありましたが、飛行機の爆音が静まるまでは授業は中断の繰り返しでした。3年になると人手不足で勉強どころではなく、学徒動員で海軍工廠で働いておりました。

戦争が終結し、上司の海軍中将から「各人各家庭に帰り人間らしい生活をして下さい」と言わされたのが今の平穏な世の生活のことだったのでしょうか。

通学は高山から鹿屋までの超満員の汽車通学でした。背の低い1年生は酸欠で顔色が悪くなり、窓を開けて涼しい風に当てて元気を取り戻して学校に行くような状態でした。下級生の中には尊敬する先輩の為に席に座り、途中から乗る先輩に席を譲る習慣もあり、『稚児主と稚児』と言っておりました。

学業の方は中間試験で平均98点でも10番内に入れず、平均60点以下か、50点以下が3科目あれば落第と聞いておりました。

私たちが旧制の中學の最後の卒業生で新制の3年に進級もできましたが卒業しました。

進学のために垂水汽船で鹿児島市に行ったら港から照国神社の鳥居が見えており、焼野原になつた戦争の悲惨さをしみじみと感じました。

成人し垂水に移り住み子どもたちが鹿屋高校に通う時代になると、朝課外に間に合うように垂水から古江始発のディーゼルに乗るために各家庭車で古江駅まで送っていました。

その後、厚意の運送業者の呼びかけで学校までの通学バスが行く様になり大変助かりました。業者の方が言われるには、まるで空車を運転しておる様に皆寸暇を惜しんで車内で勉強しておられて鹿屋高校生の質の良さにうれしさを感じたと申しておられました。

人生の旅は思い通りにはいきません。時代の変革。世相の変換。それに順化して生きてゆかねばなりません。「人生とはぞや」幸せを「求む」の一言につきると思います。

## 引き継がれる 三世 三星魂



三世代にわたり本校をご卒業された河野さんご家族に、当時の思い出話を寄せて頂きました。お祖父ちゃんが卒業してから66年後に孫が卒業!! 時代は大きく変わりましたが、母校への思いは世代を超えて同じようです。

河野和孝 昭和56年卒

昭和53年、垂水中学校から鹿屋高校に入学してはや35年。

当時は1学年10クラスで約450名でした。とても個性的な人物が多く、今と同様にさまざまな行事があり、7時20分からの朝課外もあって忙しい毎日でした。

また、1年生の2学期に食堂ができたのでほぼ毎日利用していました。

入学時の健康診断で心臓肥大がわかった私は、毎週土曜日は授業を受けず病院に通いました。級友たちから休んだ日のノートを貸してもらったり、優しく大事にしてもらったりしたことを思い出します。おかげで卒業の頃にはすっかり健康体になりました。

東京の法政大学に進学し、教育実習では社会科世界史で母校に2週間お世話になりました。大学卒業後は名古屋の花屋に勤め、その後、実家の花屋の2代目として頑張っています。

結婚して娘が3人生まれ、長女は今年高校を卒業して現在大学1年生、次女が鹿屋高校3年生、3女は鹿屋東中学校2年生で鹿屋高校を目指しています。

父が高山から汽車で通い、私は垂水からディーゼルやバスで通い、娘たちは徒歩で通った鹿屋高校。

今年創立90周年を迎えた歴史ある鹿屋高校に、こうして三世代で関わることができたことを嬉しく思います。

河野史香 平成25年卒

私は鹿屋高校の第65期生で現在大学1年生です。

鹿屋高校での3年間はその時にしかできない経験をたくさんして充実していました。学校行事はどれも盛り上がり、特に自分たちで協力して作る三星祭は楽しかったです。

部活動はボートをしていました。勉強との両立が大変でしたが、高校時代に打ち込めるものができたよかったです。

夏休みに帰省して体育祭を見にいった時に多くの友達や先生方が「久しぶり!」「元気か?」と声をかけてくれ、懐かしく嬉しい気持ちになりました。

まだ卒業したばかりですが私にとって高校時代は大切な思い出です。

在校生のみなさん。鹿屋高校生は毎日が忙しくて大変だと思いますが、高校生活を楽しんでください。

# 文化祭 三星祭



創立90周年記念 三星祭 Symphony

～音楽と90年の歴史～

今年も魅せた！ 「三星祭」

平成25年9月20日(金) 13:30~15:20  
平成25年9月21日(土) 9:00~15:30

場所 体育館及び第2~3棟校舎  
鹿児島県立鹿屋高等学校

最優秀賞	3年8組
特別賞	森園絢菜さん
弁論大会	
バザー部門	
最優秀賞	2年3組 2年6組
優秀賞	2年5組
ステージ部門	2年1組
最優秀賞	2年4組
優秀賞	1年1組・1年3組

今年の三星祭（体育祭・文化祭）は「Symphony～響かせよう90年の歴史と我らの音色を～」をテーマに鹿屋高校創立90周年に合わせて開催。文化祭は9月20日（金）・21日（土）に開催。職員劇・親父バンド・PTA研修部のバザーなどもあり、生徒・職員・保護者がまさに一体となつた文化祭でした。

各部門の成績は次のとおりです。



文化祭実行委員長

中野 寛之

僕にとって文化祭は学校生活で最も熱くなれる行事と言つても過言ではない。去年、僕は文化祭実行委員（文実）として働いたことをきつかけにそう思えようになつた。その時に音響の仕事をしている先輩を見て、胸を打たれた。それが僕が文化祭を好きになった理由だ。そして、今年の文化祭は僕が実行委員長をすることになった。それは、周囲に文実をしてくれる友人がいたからだ。文化祭当日は、電源が落ちるなどのハプニングや音響のミスもあつたが、二日目に前日のミスを力

バーしてより質の高いものを作ることができ、文化祭を成功させることができた。そして、自分自身も成長することができた。最後に、文化祭を盛り上げてくださった人達に感謝の言葉を述べたい。

本当にありがとうございました。

## 文化祭を終えて

# Symphony

～響かせよう90年の歴史と我らの音色を～

体育祭は快晴の9月7日に行われました。90周年を祝う書道パフォーマンスや全学年応援団による鹿屋高校へのエールは見応えがありました。結果は黄組(3年)が赤組(2年)に競り勝って優勝。3年生の各競技での力強さと団結力が感じられた素晴らしい体育祭でした。



## 価値ある仲間

黄組団長  
三年四組 小迫 大将

私は、三年生になり迎える体育祭が一番充実し、一番辛いものでした。三年生になり学業を最優先しなければいけないこともあり、限られた時間の中で三年間仲間と共に作り上げてきました。集大成となる演技をしなければいけないという団長としての重圧もありました。

しかし、私は五十三人の応援団員そして五十四人目の応援団員である三年生一人一人に救われました。辛く苦しい時にこそ仲間と手を取り合い協力する大切さを学び自分は一人ではないことを教えられました。こんな素晴らしい仲間と優勝でき、団長をさせていただいたことは一生の宝物です。



# 赤組応援団

赤組団長  
二年一組 成尾 春香



私たち赤組は、部活動の中 心学年だつたため、なかなか 応援団員が集まらずに苦労し ました。練習でも思うように いかず、体育祭当日までどう なるか分からぬという状況 でした。しかし、体育祭当日の 赤組の団結力は素晴らしいも のでした。各種目にも一生懸 命取り組み、90周年を祝い全 員で作った「KANOYA 90」という文字は全員の思いが詰 まつた美しいものになりました。惜しくも50点差で三年生 に勝つことはできませんでしたが、「優勝」を目指して赤組 全員で熱くなれたとても充実 した一日となりました。



私はこの体育祭を自分が盛り上げようと思い応援団長になることに決めました。今回応援団長をしたことで学んだことがいくつもありました。その一つが全体をまとめる大変さです。応援団の練習を自分の考え方通りに進めても、部活などの兼ね合いもあり全員で練習するのも難しい状況でした。そこでただ時間を長くするのではなく練習の質を上げてはどうかという先生のアドバイスを実践してみると、時間がもて気持ちを一つにしき通すのではなく周りの人の意見を尊重することで全員で練習ができる時間がもて気持ちを一つにして本番に臨むことができました。

先輩方の偉大さを見せつけられましたがとても充実した体育祭になりましたがとても充実した体育祭になりました。最後に今までついてくれた一年生全員に感謝したいです。ありがとうございます。



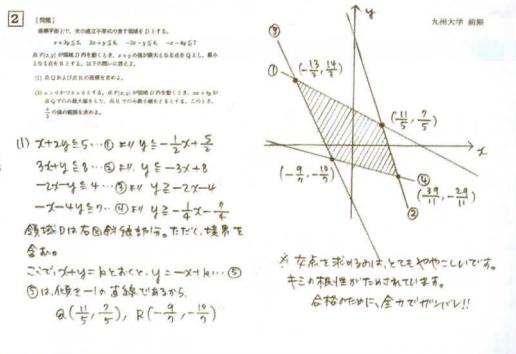
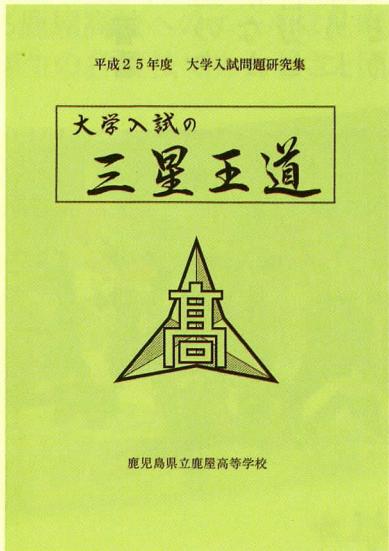
# 応援団長をして学んだこと

青組団長  
一年一組 柳谷 将志

## 三星王道完成

進路指導部では、毎年学習指導係を中心となつて、大学入試問題研究集を作成しています。これは市販の問題集とは異なり、本校職員が本校生徒が学ぶに適する解説をつけた問題集です。数ヶ月の検討を行い発行しています。教科によっては手書きの解説も「三星王道」ならでは!! 各クラスに配置され活用されています。

受験生のみなさん最後までがんばってくださいね。



# がんばれ受験生!!

10月1日からの大学入試センター試験の出願にあたり、毎年9月下旬にセンター試験出願式と職員が荒平天神へ出かけ合格祈願を行っています。

センター試験出願式は代表生徒の決意表明と職員の講話、達磨の目入れを行うことで受験に対する意識を高め、学年団としての連携を深め、協力して学習する姿勢を作ることが目的です。

合格祈願として3学年と進路指導部の職員が荒平天神にお参りをしています。職員も長い闘いに向けて団結を図っています。

大学入試センター試験の志願票は担任、進路指導部が点検取りまとめをして、10月の大安に合わせて発送しています。



## 第66期生センター試験出願式

9月27日（金）本

校体育館において、  
センター試験出願式  
が行われました。

はじめに学校長の挨拶・進路指導部長からの説明があり、クラス代表による達磨の目入れの後、生徒代表（2組白山真美さん・8組永野太一さん）が決意表明をしました。

職員からの体験談を交えた講話の後、応援団長（4組小迫大将さん）によるエールで学年団の連携を深めました。

**荒平天神 合格祈願に参加して**

三年 英語担当 西畠 真悟

受験生、その家族、友人、指導者などそれぞれの祈り方は違えど、その願いは一つ「合格」である。

受験には倍率が存在し、同じ進学先を目指す強者たちと競わなければならず、中には10倍を超す競争を勝ち抜かなければならない者もいる。そんな時は、神にでも祈りたくなるものだろう。しかし、神様だって全国数十万人の受験生一人一人の願いを聞いていては身が持たない。神様に祈るより先に、自分自身の最善の努力をすることが必要だ。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉もあるように、神頼みは最後のおまけのようなものだ。

受験生本人に代わり合格を祈願する者の気持ちというものは、「合格して欲しい（こんなに頑張っているのだから）」というものである。我々も、日ごろの生徒たちの頑張りを見ているからこそ、合格を祈願するし、

祈願をするからには増々頑張つて欲しいと思うところである。荒平天神の先生方が一人一人祈願をする姿を見て、我々も再度気を引き締めてセンター試験、二次試験に向けて尽力していくしかなければ、という思いを新たにした。



# 部活青春だあー

部活青春の第2弾! ! 本校は28の部活と4同好会があり、仲間と身体・精神を鍛え、技を磨いています。日々の課題にも懸命に取り組む部活動生たち。今回は2つの部活とマネージャーの活動を特集してみました。

さあ、どんな青春を送っているのでしょうか。



私が所属している演劇部は昨年度部員が4人しかおらず、思うように舞台を作り上げることができませんでした。しかし今年度は部員が9人になりました。しかし今年度は部員が9人になりました。幅広いジャンルの舞台を作り上げることができるようになりました。そして十月には「曾於・肝属地区高校合同文化祭」にも参加することができ、貴重な体験をさせていただきました。

演劇部が演じるのは大会で結果を残したいというのもあります。が、一番の理由は観客の皆様に楽しんでもらいためです。笑いや涙、感動をより多くの方々に届けるために演じています。そのため役者だけではなく、裏方も練習を重ねています。これからもたくさんの笑顔と感動を届けるため、努力していると思います。

## 演じる理由

# 演劇部

田原  
楓



茶道部は週に一回、茶道の先生に来ていただき作法を教えてもらっています。文化祭でも先生の御指導の下、毎年茶会を開いています。今年も沢山の方々にお茶を楽しんで頂きました。茶道の魅力は美しい所作による凛とした格好良さになります。

しかし、作法を間違えてもそれにこだわらず、背筋を伸ばし姿勢よくお茶を点てることで和の心は充分感じることができます。

茶道を通して、日本人として正しいお作法を身につけて伝統文化を学びたいと思っています。

三星会館二階翼の間、茶道部へ是非見学にお越し下さい。

## 茶道の魅力

# 茶道部

安部  
弥月

# マネージャー特集

## 男子バレーボー

## 水泳部

## 野球部

**男子バレーボー**

東倉 里歩 下小野田美優  
松島 瑞季

私たち男子バレーボー部マネージャーは、十六人の選手と共に日々バレーにはげんでいます。休日の練習はこれに加えて部室の掃除やタイム一などをします。時には選手と一緒に声出しやストレッチもします。又、試合の時はスコアブックに記録をしたり選手の身の回りのサポートに努めています。十月に行われた新人戦では少しでもチーム

**水泳部**

一松 千紘 了徳くるみ  
橋口 涼花 新保 紅

私たち水泳部のマネージャーは毎日、選手のサポートをがんばっています。水泳部は夏に主な大会があるので夏の時期は忙しいですが、とても充実した日々を送っています。また、仕事内容は飲み物を作ったり、タイムの計測・記録や用具の整理・整頓です。冬は主に筋トレをしているので、回数を数えたりしています。

**野球部**

水口 彩紀

学校が終わって炊飯器を持つてすぐにグランドに行き、飲み物の準備をし、おにぎりを握つてノックのボールの受け渡しに入り、洗濯やゴミの分別をするのが日課です。部員は45人で、マネージャーは私を含めて2人です。私がマネージャーになつた理由は、野球をしていた父の影響です。とても楽しそうに野球の話をする父を見て私は野球という世界をマネー

ジヤーとして経験したいと思いました。周囲の方々は、仕事が大変ではないかと心配してくれますが、野球部の選手達の頑張っている姿を見ると私も今以上に頑張れるパワーをもらえる気がします。まだ未熟ですが、目標の甲子園に出場できるよう皆で頑張っています。そこで応援よろしくお願いします。

水泳部は個性豊かなので普段の練習の時にはぎやかですが、大会になると目つきが変わつていいい結果を残すので嬉しくなるし、水泳部のマネージャーをして本当によかつたなどと思います。これからも選手のサポートを一生懸命頑張ります。い



の為に出来ることはないと考え十六人全員のミサンガにメッセージカードをそえて試合当日にプレゼントしました。結果は自指していなかったところには届かなかつたけれど私たちの思いは届いたんじゃないかなと思います。

これから大会では今以上の良い結果を残せるよう三人で力を合わせて全力でサポートしていきたいです。

の為に出来ることはないと考え十六人全員のミサンガにメッセージカードをそえて試合当日にプレゼントしました。結果は自指していなかったところには届かなかつたけれど私たちの思いは届いたんじゃないかなと思います。

これから大会では今以上の良い結果を残せるよう三人で力を合わせて全力でサポートしていきたいです。

# 母親研修会－朝食は「金、一

10月17日(木)に市P連母親研修会が開催され、鹿屋市食育サポート・榎山朝子先生の講演が「今一度見直そう 朝ごはん」という演題で行われました。

朝食は1日のエネルギー源で、朝食がもたらす効果、学力・体力におよぼす影響はとても大きく、朝食は金・昼食は銀・夕食は銅と言われるほど重要視されているといった内容でした。

そして、講演後は栄養バランスのとれた手作りふりかけのレシピの紹介と試食会がありました。グループ討議も行われ、各家庭の朝食の様子など意見交換をしました。

「食という字は人を良くする」と書きます。

今回の講演会を通して、改めて朝食の重要性・食べることの楽しさを考え感じることができたひとときでした。

市P連母親研修会

# 文化祭PTAバザー(パン販売)

9月21日(土)研修部による文化祭PTAバザーが行われました。

7月の研修部会で詳細を話し合い、前年度と同様にオランジェブルとロンドンパンの、メロンパン、むらさき芋パン、ピザパン、プリンパン、ウインナーパンなど約20種類のパンとお茶やジュースの販売を決めました。

文化祭の当日は、ペットボトルを氷水で冷やしたり、値付けやポップのはりつけ、おつりの準備などを全員で分担し11時前にはスタンバイOK!!

いざお客様が来始めると、みるみるうちに長蛇の列ができ、にわか販売員の私達は、袋に入れる手が震えたり簡単な暗算もできなくなったりと、ハプニングもありましたが、数時間の間に研修部員同志で話したり笑い合ったり交流が深まりました。

用意したパン750個、ペットボトル288本をなんとか完売し、約3万円の収益を生徒会へ寄付することができました。

売上に協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

又、研修部の皆さんも、朝の準備から夕方の片付けまで長時間お疲れ様でした。

下八重 明



# PTA NEWS

## PTAミニバレー大会

ニュースとしては遅きに失した感がありますが、7月21日(日)PTAミニバレー大会が行われ、手に汗握る熱戦が繰り広げられました。試合の合間にはお茶を囲み、夜には懇親会も行われ、冷たいビールでのどを潤し、親睦を深めました。

### 優勝

3年5組

(市P連バレー大会出場)

### 結果

### 準優勝

1年5組

### 3位

2年4組・2年6組



## 編集後記

PTA新聞65号  
発行に当たりましては、ご寄稿いた

だきました方々をはじめ、写真・資料の収集など、多くの皆様のご理解・ご協力をいただき

児嶋・上床・黒原

担当職員

1 2  
1 7  
4 8  
新船迫保

担当副会長

1 1  
1 4  
5 猪谷野  
有馬

1 1  
1 2  
2 8  
2 7  
2 4  
2 4  
2 1  
2 1  
2 2  
2 2  
2 2  
3 3  
3 1  
新西蘭  
久保園  
田中安部野  
河原之下  
園

報部員までございました。お知らせください。お問い合わせ等がございましたら、ご要望等がございましたら、ご感想をいたします。ご協力をいたしましたことを心から感謝いたします。

広報部員